

健康と光線

神経系疾患を引き起こす病態

7月に発刊した本紙で、神経系疾患の主要な原因の脳血管障害を引き起こすメタボリックシンドロームを予防する観点から、光線療法が肥満に及ぼす効能を中心に記述したが、本号では動脈硬化、高血圧、糖尿病に対する予防効果について考察する。

動脈硬化

脳血管障害の最大の原因である動脈硬化は、成因から粥状硬化(アテローム性動脈硬化)、中膜硬化、細動脈硬化の三つに分けるが、脳血管障害に結びつく頻度が高いのは脂質異常症に基づく粥状硬化である。脂質異常症とは、血液の中のLDLコレステロールが上限値の140mg/dlより高く、HDLコレステロールが下限値の40mg/dlより低く、

トリグリセライド(中性脂肪とも言う)が上限値の150mg/dlより高い状態に名付けられた呼称である。中でもLDLコレステロールは肝臓で合成されたコレステロールを全身に運搬、供給する作用を営んでいるが、高LDLコレステロール血症を起こして動脈壁にコレステロールを十分に供給したのに更に供給し続けると、余分なコレステロールを貪食したマクロファージの死骸がお粥のような塊、粥腫(アテローム)を形成して、大動脈、脳動脈、冠動脈のような比較的大い血管の内腔を狭めて、脳梗塞や心筋梗塞の原因になることから、悪玉コレステロールと呼ばれている。これに対しH

神経系疾患と光線療法

— 神経系疾患の予防・その2 —

サナモア光線協会
サナモア中央診療所

医学博士 宇都宮 光明

や心筋梗塞のリスクを高めるように作用する。

中膜硬化とは、ビタミンD欠乏症やカルシウム摂取量の不足で必要なカルシウムを吸収できずに血中カルシウム濃度が低下すると、副甲状腺ホルモンのパラソルモンが働いて骨からカルシウムを溶出させ組織内カルシ

ウム濃度を上昇させるカルシウムパラドックスを起こすため、動脈中膜の平滑筋細胞内のカルシウム濃度が上昇して、動脈石灰化を伴う動脈硬化を起こすことである。この中膜硬化も比較的大い血管で起こるため、脳動脈疾患、冠動脈疾患の病因になる。

細動脈硬化は高血圧や糖尿病に長期に罹患している人のごく細い血管で起こる動脈硬化で、血管壁が硬く脆くなって、詰まり破裂して出血したりする。

ところでこれらの病態に及ぼす光線療法の役割は、脂質異常症を解消して粥状硬化が進むのを防ぎ、ビタミンDを生成して欠乏症に起因するカルシウムパラドックスを予防して中膜硬化を防ぎ、細動脈硬化については高血圧、糖尿病を改善して予防する効果がある。

高血圧

高血圧は動脈に負荷を掛けて

糖尿病

動脈硬化を促し、さまざまな合併症の要因として作用するため、血圧を下げる降圧効果がある治療法が求められる。光線療法がこの点で果たす効果について、英エジンバラ大学のリチャード・ウェラー博士は、光線(紫外線)を照射した被験者の血圧は一樣に下がることを指摘し、その作用機序について、紫外線にさらされた皮膚細胞が血管を弛緩させ拡張させて血圧を下げる作用がある一酸化窒素を放出するためと述べている。なおビタミンDの血中濃度の値が低いのも高血圧のリスクになる。

厚生労働省の糖尿病研究班は、必要量のビタミンDを確保して、必要量のカルシウムを摂取していれば、糖尿病を予防する効果があると発表した。この効果発現の機転については、インスリンを産生する膵臓のβ細胞にビタミンDとカルシウムの受容体があり、この受容体を介してインスリンの分泌を促す作用があるためである。なお実験的にビタミンD欠乏状態になると、β細胞が分泌するインスリン量は激減する。

発行所
〒153-0063
東京都目黒区目黒
4-6-18
サナモア光線協会
年4回発行
会費年500円
電話 東京(03)
3793-5281
3712-5322

一病息災 一病息災

人類の進化と発がん

サナモア光線治療院

院長 医学博士 宇都宮 正範

はじめに

超高齢化社会に突入した本邦において、がんは日本人の二人に一人がかかる身近な病気となっており、年々増加傾向にあります。これまで、発がんのメカニズムについては、様々な角度からの研究によって、多くのことが分かってきました。肝細胞がんの肝炎ウイルス、子宮頸がんのヒトパピローマウイルス等は、ウイルス感染による発がんが証明された例であり、ピロリ菌による胃がんの発生も、ここ数年、注目されています。ピロリ菌が、強酸の環境下で生き、萎縮性胃炎を引き起こし、胃がんの発生リスクを10倍高めるといふことは大きな驚きでした。他にも、喫煙や肉食等の生活習慣、化学物質による大気汚染等、様々な因子が、発がんに関係することが明らかにされてきました。NHKで放送された「病の起源」という番組のなかでは、発がんを人類の進化と関連付けて説明し、発がんを人類の進化の代償と捉えています。

「病の起源」から

日光が悪役とされてから久し

く、現代社会において、紫外線は様々な場面においてバッシングの対象とされています。夏の季節の天気予報では、紫外線注意情報が連日流され、日光浴にいそむ人々は、無知であると言わなければならない勢いです。対して番組では、もともと東アフリカという赤道近く、日差し強い地域で誕生した私たちの祖先は、新しい居住地を求め、地球上の様々な地域に移動しましたが、赤道から離れて暮らすことが、日光を浴びてがんを抑制するという生来人類に備わっていた仕組みを、だいたしにしましたと説明しています。とくに、米国のガーランド博士の行ったがんの疫学調査結果から、米国における紫外線量の分布地図と大腸がんの発生地図を重ね合わせると、見事に一致すること。そこから、紫外線の照射が少ない地域で、大腸がんの発生率が高いことを突き止めた。これには、紫外線が皮膚に当たって合成されるビタミンD量が関係すると結論付けています。さらには、この調査結果をもとに、ネブラスカ州のある街で、ビタミンDの投与が、大腸

がんの発生率にどう影響を及ぼすかを調べる前向き研究が行われていることを紹介しています。

そして、この章の終わりで、人類にとっては紫外線も必要不可欠で、大切であると結んでいます。日当たることを極端にきらい、美白を求め続ける一部の世の女性には、是非とも聞いてもらいものです。

なお、本邦においても、米国と同様の疫学調査結果が報告されており、大腸がん乳がんは、緯度の高い地域に多いとされています。

ビタミンD 必要量と日光浴

最近、ビタミンDの必要量と日光浴に関して、国立環境研究所を中心としたチームから報告がなされました。健康な生活を送るために必要な成人の一日のビタミンD摂取量5.5μgすべてを体内で生成するとした場合に、必要な日光浴の時間を、国内の三地点、札幌、つくば、那覇で検討しています。その結果、両手、顔を露出した条件下で、紫外線の弱い12月の正午に、必要

量のビタミンDが生成されるためには、那覇で8分、つくばで22分、札幌では76分も日光浴しなければならぬことが明らかにされました。つまり、緯度の高い冬の札幌では、つくばの3倍以上の日光浴が必要となる訳です。

また、厚生労働省の基準では、成人で一日に必要なビタミンDを補うためには、魚一匹(50g)を食べる必要があると指摘していることから、ビタミンDは食事からの摂取に頼るだけでなく、積極的に日光浴を行い補うことが望ましいと言及しています。

人類の進化から

進化の過程において、人類が得たものはあまりにも多いのですが、引き換えに、失ったものも沢山あることに気付かされたように思います。

もしかしたら、私たちは、人類の誕生した故郷、進化の過程を振り返ることによって、がんを含めた多くの疾患のメカニズムを解明することができるかもしれない、もう一度、原点に戻り、人類の進化の道のりを学ぶ必要があるのかもしれない。

サ/ナ/モ/ア/便/り



vol.55 宇都宮 正範

第十八期

サナモア光線治療師
養成講座を東京にて開講

今年度も、第十八期サナモア光線治療師養成講座を、六月二十七日から三日間の日程で、開講することができました。初日は、何となくきこえない様子でしたが、二日目の体験治療を終えた頃から、和気あいあいと会話ははずみ、最終日には、すっ

かり打ち解けた様子でした。今回、治療師認定を受けられた方々をご紹介します。(写真)



◆ 治療師認定者 ◆

磯田 實(兵庫県)、川村 苗穂(子岩手県)、深澤 恵子(千葉県)、原田 三恵子(奈良県)、本城直宗(鳥取県)、後藤 晶子(埼玉県)、清水 操(埼玉県)、池田奈保実(千葉県)。敬称略

第三十九回

「光と熱研究会」
のお知らせ

医療に関連した話題の講演や

治験例の報告を中心とした研究会を開催していますので、一般の愛用者の方でも是非ご参加下さい。なお参加は無料です。

日 時・十月十九日土

午後二時三〇分

場 所・サナモア光線治療院
三階会議室

治療院&治療師紹介

今回は先に行われたサナモア光線治療師養成講座に出席し、治療師資格を取得された方から頂いたお手紙を掲載致します。

いそだ整骨院

磯田 實治療師

姫路市広畑区高浜町3-15

TEL 〇七九-三三七-九六五五

偶然か必然なのか分かりませんが、養成講座のために上京する二日前から、右前腕と右側腹部に痒みを伴う湿疹ができ、右足第一趾は痛風のような痛みで、足を引きずりながら、目黒駅に到着。通常なら、数分程度の下り坂を30分かけて会場の治療院にたどり着きました。

初日は光線療法の始まりから現在に至るまでの道のり、光線

療法の生物学的作用等の講義を受け、二日目は、治療師の仕組みや取扱いを勉強した後、二人一組となって、ルーフ式・マルチアーク療法による全身照射の体験治療を行いました。これまで非常に興味があった照射法でしたので、それを実際に体験できたことは、養成講座における大きな成果の一つとなりましたが、実際に免疫力が高まったためか、体験治療後、腕と足の状態が良くなりました。

さらに、カーボンの種類と効果、治療に際してはカーボンの組み合わせが大切であることを

学び、関係法規では、遵守するポイントについて勉強。そして、最後に小テストを受け、認定書を授与され、帰路につきました。今回、受講の準備が整い参加しましたが、接骨業三十年、私の知らない治療法を、もっと勉強したいといった気持ちにさせる三日間でした。

しかも、自身の体調が下降気味だったなかで受けた体験治療によって、思わぬ形で、サナモアの効果を強く印象づけられました。

養成講義に携わった方々に、心から感謝致したいと思えます。

◆ 募 集 ◆

サナモア光線治療師

当協会の趣意に賛同され、サナモア光線療法の普及にご協力頂ける方、治療院の開業を検討なさりたい方は、お問い合わせください

サナモア光線治療院

〒153-0063

東京都目黒区目黒1-23-11

TEL (03) 5759-3710

FAX (03) 5759-3720

治験例報告

前立腺肥大症による排尿障害が

サナモアで改善

神戸市 ウエノ光線療研

上野 健太郎氏報告

TEL 0781-331-1358

症例 57歳 男性 会社員

症状 以前から、少しずつ、夜間、トイレの回数が増え、排尿が始まるまでの時間が長く、尿の流出も悪くなったため、近医泌尿器科を受診。そこで精査施行したところ、前立腺肥大症と診断され、投薬治療が開始されたが、排尿にともなう諸症状は、一向に改善しないため、サナモア愛用者である妻の実家の勧めもあり来所した。

療法経過 治療は、最初Bカーボンで、会陰部30分、下腹部30分、腰部30分照射。その後、Aカーボンに変更し、足裏20分、膝20分の照射を施行。翌日から、一日二回、自宅での治療を開始した。

数日後、排尿時の感覚がなんとなく違うように感じ、一週間後には、尿の流出が明らかに良

くなったように感じる。その後、良かったり、悪かったりを繰り返

返したが、一か月が経過した頃には、排尿時に力むことが少なくなり、さらに一か月後には、尿の流出に勢いを認め、気持ちよく排尿できるようになった。前立腺肥大症は、老化現象の一つと言われるので、これからもサナモアは欠かさず続けると話されている。

治験例報告

サナモアでアトピー性皮膚炎を治療

福岡県春日市 育美健康光線療研

山崎 いく子(旧姓前田)氏報告

TEL 092-581-0390
571-1573

症例 23歳 女性

症状・療法経過 知人の紹介で治療器を購入し、アトピー性皮膚炎に対して、自宅でサナモアを使用していたが、治療法の指導を受ける目的で来所した。

初めて来所した時は、皮膚から浸出液が分泌しており、全身を包帯でぐるぐる巻きにされていた。母親の話では、小学校低

学年から現在に至るまで、ステロイド軟膏を使用。他にも、ありとあらゆる治療法を試してきたが、それらを全てやめるために、サナモアを始めたと話された。

サナモアを本格的に始める前に、ステロイド軟膏の中止によるリバウンド等で、一時的に皮膚の状態が、かなり悪くなることを説明したが、サナモアでの

サナモアカーボンの類似品にご注意下さい

サナモアA(緑印)、B(赤印)、C(青印)、D(黄印)カーボンは、その使用法を書いた著書「光線療法学」ともどもご愛用者各位の御信頼を戴き、全国津々浦々まで高い評価を受けておりますことはご存じの通りです。

ところが他社製カーボンに「光線療法学」をセットしたり、当研究所が独自に広めたカーボンの呼び名のA、B、C、Dや緑印、赤印、青印、黄印を勝手に流用したり、あたかもサナモアと同じと見せ掛けて販売している業者がいます。もとより、このような道理にもとる人をあざむく行為は断じて許されるものではありませんが、当研究所としては他社製カーボンを使用した場合の効果について一切の責任は持たませんので呉々もご注意下さい。

なおカーボンについて疑問の点がありましたらお問い合わせ下さい。

株東京光線療法研究所

治療を強く希望した。

自宅では、Aカーボンを使用していたが、皮膚の状態から、Bカーボンに変えて照射することを指導した。自宅治療を行うなかで、不安な気持ちを抱え、何度か電話連絡があったが、頑張って治療を継続。

約三年が経過した頃来所し、一時的に大学病院に入院したが、毎週末、金曜から月曜まで、自宅でサナモアを照射し、退院後は、現在に至るまで、ずっと

サナモアを使用してきたと話され、肌は、別人のようにきれいになっていた。そして、来所の目的は、結婚が決まり、サナモアを持って嫁ぐためのようで、これまでの治療経過を思い、本当によく辛抱し続けられたと感じた。

参考・本症例では、皮膚の状況から、当初Bカーボンを選択したが、AまたはACカーボンがよい場合もあるので注意が必要です。

治療例報告

膠原病にともなう

諸症状をサナモアで治療

川崎市 東京光線治療院

海渡 一二三氏報告

TEL 〇四四一七三二五〇六七

症例 40歳 主婦

症状 体調不良に加えて、身体全体に広がるあざのような湿疹と関節痛を認め、病院では、膠原病と診断されて投薬治療を受けていた。他に、以前から、冷え性を自覚しており、血清コレステロール値も若干高めのため、サナモア愛用者の知人に紹介され来所した。

療法経過 平成24年6月、治療を開始。四台の治療器で、A Bカーボンを使用。最初の二か月間は、身体との距離を30 cm程度離して、光線にならすための治療を行い、身体に支障をきたさないことを確認したうえで、照

射距離を通常通りとして行った。

治療は、最初、側臥位にて、顔面、腰部、臀部、膝を各15分ずつ照射。次に、後頭部、腹部、足裏を各15分ずつ照射。さらに、

仰臥位として、右耳、左肩、右腰部側面、左膝側面を各15分ずつ照射してから、左耳、右肩、左腰部側面、右膝側面を各15分ずつ照射した。

翌年の1月になると、皮膚の状態は、ほとんどきれいになっており、今後は、自宅での治療を継続するように指導し、当院での治療は中止とした。その後、5月に来所した時には、経過も良好で、元気な様子であったため安心した。

治療例報告

関節リウマチを

サナモアで治療

目黒区 サナモア光線治療院

東原 なつ子氏報告

TEL 〇三三五七五九一三七一〇

症例 50歳 女性

症状 十年以上前から、全身の関節に痛みを認めていて、関節リウマチと診断されており、手指の変形も見られる。以前から、

サナモアは自宅ですべてきたが、最近、左肩関節、左肘関節の痛みが強く、今回、集中的に全身照射を受ける目的で来院した。

全自動光線治療器

はつらつさんと
ジョイントカーボン

サナモアはカーボンの芯剤を完全燃焼させることで最も効果のあるスペクトルを含む光線を放射するように、正面からカーボンをぶつける正面発光式を採用しています。そのため手動式のサナモア7号器・8号器では照射時間が十分強で切れ、長時間の照射にはご不便をお掛けしてきました。この点を改良したのが全

自動光線治療器はつらつさんで、照射時間は5分刻みで60分まで設定でき、カーボンの消耗に合わせてジョイントできるサナモアカーボンをつないでおけば、自動的にカーボンを送り安定した光線を放射します。

*

なお、はつらつさんご使用の際には、安全性を保ち、事故を未然に防ぐため、ジョイントカーボン以外のカーボンは絶対に使用しないで下さい。使用上の注意は、「はつらつさん取扱説明書」をご覧ください。

療法経過 治療には、五台の治療器を使用。右側臥位にて、腹部(B D)、膝(A B)、足裏(A B)、左肩背面(B D)、左肘背面(B D)の部位を40分全身照射。治療は、週に二、三回のペースで開始。関節痛は次第に軽くなっ

ており、治療後は、身体全体がほぐされ、癒されていることが

実感でき、元気が出るようだと話している。

関節リウマチは慢性的な経過をたどる疾患であることを念頭に置き、関節痛の緩和と進行を抑えることが治療の中心となることを十分説明し、これからもサナモアを継続するよう話している。

サナモア光線療法 愛用者の声

サナモア光線治療師 養成講座を受けて

岩手県 川村 苗穂子治療師

夏の訪れを予感させる気候のなか、六月二十七日から二十九日まで、三日間にわたる養成講座では、大変お世話になりました。

モデルのようなスタイルのお嬢さん二人、今どきの青年二人、五十代の女性二人、六十代前半の男性一人、六十代後半の私を入れた総勢八名が、今回の受講者でした。私は先生の講義を聴きながら、覚えられない頭で、「ここが大事です」「ここはテストにです」と言われた箇所に懸命に赤線をつけ、光線療法の歴史、原理、作用、医学のこと、

さらには、治療器の仕組み等を勉強させて頂きました。研修二日目の午後には、ルーフ式・マルチアーク療法による全身照射の体験実習があり、ほっと一息つくとともに、勉強の疲れを癒すことができました。

受講者の中では、私が一番年長であったため、皆さんに助けられ、そして教えられ、なんとか無事に終えることができたように思います。

さて、私自身のことを少し話します。四十歳の頃から体調があまり思わしくなく、吐気、めまい、動悸に悩まされていました。なかなか改善しないため、東洋医学で治すことができないかと思いい、一念発起して、五十七歳の時、鍼灸の専門学校に入学し、六十二歳で国家資格を取得しました。その後、縁あって、サナモア光線療法と出会い、自身でも使い、サナモアについてもっと深く勉強したいと考えるようになり、受講するに至った訳です。

今考えても、同期の方々の暖かい雰囲気のおかげで、本当に三日間を楽しく過ごせました。同期の皆様、本当にありがとうございました。

今回の講座で、さらに太陽の恵みありがたきを実感するとともに、まずは、サナモアでわが身の体調を整え、残りの人生を元気で過ごしていきたいと思っています。これからもよろしくお願い致します。

～返 信～

早速にお手紙ありがとうございました。今回、川村さんは、最年長でしたが、そのような印象はなく、周りの方々に十分溶け込んでいました。小テストの成績も、非常に良かったので、安心ください。

サナモア体験記募集

サナモア光線協会では、皆様からの体験記を募集しております。なお掲載させて頂いた方には、薄謝を贈呈致します。

サナモア体験記の投稿について、メールでの募集も開始いたしました。下記のアドレスまで、お気軽にご投稿をお願い申し上げます。

メールアドレス：sanamore@hr.catv.ne.jp



サナモア光線協会

趣意書

サナモア光線協会は、太陽光線こそ健康を増進する自然の恵みの源泉であり、生命力を高めて病気の予防、治療に効果があるとの観点に立ち、太陽光線に近似したフルスペクトル光線を放射するサナモア光線療法の啓蒙、普及活動に努めることで、国民の健康、福祉に貢献します。

サナモア光線協会は、サナモア光線療法に対する認知と評価を高めるため、一、季刊紙、「健康と光線」の発行、二、サナモア光線治療師の募集と育成の事業を行います。

サナモア光線協会

医学博士 宇都宮 光明

「健康と光線」の購読者を募集します。また事業の詳細はお問い合わせ下さい。

〒153-0063 東京都目黒区目黒4-6-18
サナモア光線協会 TEL (03) 三七九三―五二八二
三七二一―五三三二

(本紙の無断転用を禁止します。)